高野詣で

（一）

番助

高野山開創一千百年紀念の爲め同山にては四月一日より五月二十日に至る五十日間大法會を修すこ云ふので全國の信徒は大小の團體參詣を企圖し行くは〳〵登るは〳〵、時候は恰度櫻時、有難連で無い者も見物かたゝ〳〵參詣する、戻りは吉野を初め大和路を廻つて奈良から京都、伊勢、日光、善光寺こ交通の便を利用して一巡を計畫する連中もあれば又た手近かの見物を團體割用で行かうこ云ふ關足見物もある

臺北の新高野山弘法寺の信徒連で計畫した團參は高野山丈けで大阪へ戻つて解散する組織で其後は各々自由行動を取る事である、それで九日臺北を出發した團參の總員は百六十二名、海路恙なく門司發後瀬戸内で巨船ミネソタの遭難を見て膽を冷やし十三日の朝無事に神戸へ上陸した、これも南無お大師樣の御加護か、幸ひにして洋靜かに一人の船暈者も無く江里口老團長以下全員大元氣で海岸の後藤に休憩する、ヤレ手荷物だソレ何だこ隨分混雜を見たが何が百六十の大人數こてこれは免がれぬ所、三の宮驛から汽車に乘る、押すな〳〵の雜沓に流石の臺灣連眼を圓ふして恐れ入る、それも漸々二把の汽車に分けて先つ大阪へこ著、更らに電車に押し詰められ道頓堀の宿屋四軒に分宿してホツこ一息、ヤレ〳〵團參ならもの、骨の折れ方は一層の事だ、總員百六十名の玉なる手荷物が四百幾十箇、己れの行李が無い、鞄が紛失したこ始こ夜の十二時過ぎまでガヤ〳〵

明くる十四日午前七時には最う總員揃へして淡町驛へ到著、大阪神戸邊から歸省中の人が參加したので總員百七十六名こなる、汽車は七時三十何分かの發車で高野口へ下車したのは午前十一時前だ、他にも團體があるので臨時に擴張された高野口驛の昇降場もギシリの人で桶の中で芋を洗ふやうな有樣、驛頭には音樂隊が整列してブー〳〵で團參員を歡迎するなこ高野山も興行的で先つ甚だ有難くない氣がする、姿迎係こか案内係こか法衣の僧が出迎へる、開札口から吐き出された臺灣團は驛前の旅館東雲館へ入るこ此の家では團參員の爲にバラック式の廣間が新築されて居る、料理屋で多數の宴會をする樣に脊中合せに幾竝にも向き合つて座が定まるこ高擧脚高の膳が運ばれる、汁が注いで廻られる、大きな黒塗の盥の如き飯櫃が運び込まれてお粗末ながら腹支けは滿ちた、サア愈々これから高野山登りこムい

本年度招魂祭

明け靈したる諒闇以降の本年度招魂祭は昨年度に於ける青島十陸軍の新戰死者を合祀へて特に盛大に施行せらるべき筈なるが本年度に於ては本島五箇年理審事業最後の偉觀たるものこ期し一般參詣者を合祀せられたる遺族の參拜希望者の便宜を計るべく當臺北事務所に關する分は例の如く濁水溪以北の分なるが當日は特に遺族の參拜希望者の便宜を計るべく本日迄の高堂書店へ申込むべしこ

聯合遠乘會

體育倶樂部馬術部こ陸軍騎校園の聯合第二十五回遠乘會は來る二十五日施行の豫定なりこ

熊本縣人大會

熊本縣人會にては來る二十五日午十二時より圓山公園の廣場に於て家族大會を開催す車に押し詰められ道頓堀の宿屋四軒に分宿してホツこ一息、ヤレ〳〵團參ならもの、骨の折れ方は一層の事だ、總員百六十名の玉なる手荷物が四百幾十箇、己れの行李が無い、鞄が紛失したら始こ夜の十二時過ぎまでガヤ〳〵

亂暴なる大尉

（二十二日東京發）陸軍省軍務局員陸兵大尉吉見高治は去る十四日夜泥酔し午近加賀町附近通行中の一美少年を捉へ路上にて醜行を逞けんこしたる事發覺し昨日停職停俸せ付けられたり

五月中の野球戰

▽爭覇戰試合日割

爭覇戰は四月十八日にGB團對秘團戰を以て開始され六月末を以て決戰を終る筈なるが今五月迄の各團組合せ並に試合日割を掲ぐれば左の如し但し(イ)は午前九時開始(ロ)は午後三時三十分開始なり

四月二十五日午後二時祝關對好球、五月一日午後二時高砂對鐵　二日(イ)電對法院(ロ)三星對好球(ハ)八日(ハ)財務對鐵　六日(ハ)土木對鐵第二　八日(ハ)總對財務　十二日(ハ)專賣對法院　十五日(ハ)高砂對財務　十六日(イ)稅關對三星(ロ)電對鐵　十八日(ハ)專賣對土木　二十二日(ハ)高砂對鐵　二十五日(ハ)總對土木　二十九日(ハ)GB對三星(ロ)專賣對實業(ハ)高砂對財務　三十日(ハ)專賣對法院

以上の內元老團は高砂こ共に一團こなり又ホテル團は實業團こ合同し二團團を減じたるが一方には專賣局養氣俱樂部の一團新たに加はりたれば都合十五團團を以て決戰することゝなる由なり

中部野球戰

中部各野球チーム混合試合は二十五日午前正八時より遊廓新廓地に於て開催の筈なるが聯合團及び法院臺銀彰臺中驛及び郵便局の五團體なりこ定めて當日は盛況を呈するこならんこ

大相撲乘込

好角連や最負筋の待ちに待ちたる東京大相撲一行は涼しい中にこ太刀山、西の海、大蛇潟、綾川の午前七時十五分臺南相撲初日取組

（小嵐　太刀の音）　（高千穂　四國洋）
（矢筈山　江戸櫻）　（一湊　天鹽洋）
（駒ヶ嶽　外ヶ濱）　（朝乘綠　稻葉嶽）
（源氏山　對馬洋）　（大蛇潟　大門岩）
九州山　綾川
（鶴渡り　西の海）　（太刀山　大錦）
土州山　黒瀬川
四海波　小當麻

臺北廳移轉式

▽明二十四日午前舉行

昨年來三坂橋庄に新築中なりし臺北廳舍は略々落成したるに依り明二十四日午前十時より同所に於て移轉式を擧行する筈にて其の次第は

一同日午前十時、一時間前煙火三發、來賓參集第二、來賓廳舍親覽二、發式(午前十一時)、來賓祝辭七、餅撒き八、開宴(奏樂合圖)九、模擬店開始十、散會

の順序なるが當日は佐久間總督も來場せられ官民の來賓も頗る多數の由なり尙ほ當日の來賓は擧式もあることなれば子供は同伴せざる樣服裝も飾り見苦しからざる樣注意ありたく且つ必ず徽章を附し可成案內狀を持參ありたしのことなり、尙同式場には下駄履きにては入り能はざるに依り靴草履にて行くが便利なるべしこ、以上は二十四日擧式當日の次第なるが翌二十五日より二十七日迄三日間は每日午前九時より午後四時迄同廳舍內に展覽會を開き一般の觀覽に供する筈なるが閉鎖時間は午後四時なれば一般觀覽者は遲くも三時牛迄に行かざれば謝絕せらるべし尙ほ此の展覽會には花道會よりの寄贈にかゝる臺北花道會諸先生の腕を振ひたる生花約八十基を陳列する由なり、更に夜間は明日より四日間該廳舍にイルミネーションを點じ煙火をも打上ぐるも由なれば夕涼みの散步に出掛くるも亦可なるべしこ

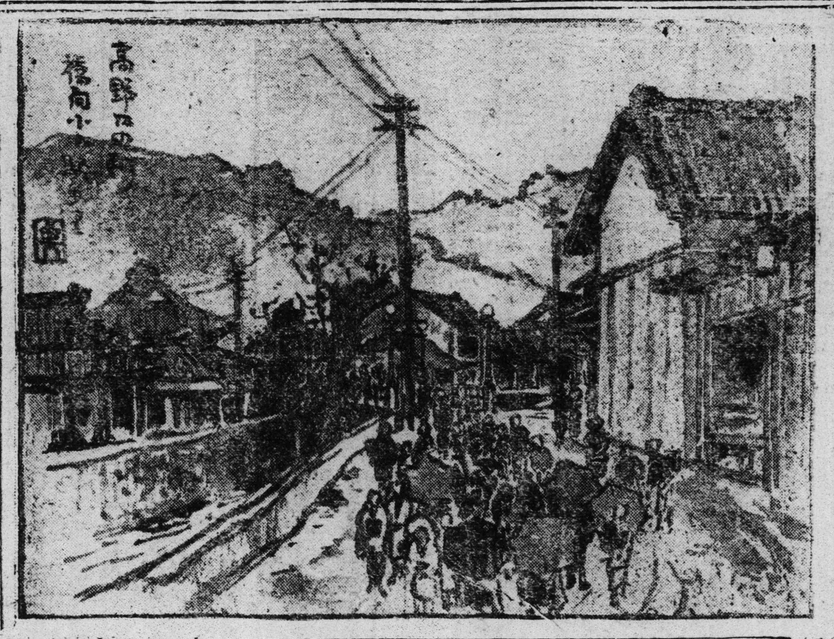
臺北廳移轉式

（一）

番助

高野山開創一千百年紀念の爲め同山にては四月一日より五月二十日に至る五十日間大法會を修すこ云ふので全國の信徒は大小の團體參詣を企圖し行くは〳〵登るは〳〵、時候は恰度櫻時、有難連で無い者も見物かたゝ〳〵參詣する、戻りは吉野を初め大和路を廻つて奈良から京都、伊勢、日光、善光寺こ交通の便を利用して一巡を計畫する連中もあれば又た手近かの見物を團體割用で行かうこ云ふ關足見物もある

臺北の新高野山弘法寺の信徒連で計畫した團參は高野山丈けで大阪へ戻つて解散する組織で其後は各々自由行動を取る事である、それで九日臺北を出發した團參の總員は百六十二名、海路恙なく門司發後瀬戸内で巨船ミネソタの遭難を見て膽を冷やし十三日の朝無事に神戸へ上陸した、これも南無お大師樣の御加護か、幸ひにして洋靜かに一人の船暈者も無く江里口老團長以下全員大元氣で海岸の後藤に休憩する、ヤレ手荷物だソレ何だこ隨分混雜を見たが何が百六十の大人數こてこれは免がれぬ所、三の宮驛から汽車に乘る、押すな〳〵の雜沓に流石の臺灣連眼を圓ふして恐れ入る、それも漸々二把の汽車に分けて先つ大阪へこ著、更らに電車に押し詰められ道頓堀の宿屋四軒に分宿してホツこ一息、ヤレ〳〵團參ならもの、骨の折れ方は一層の事だ、總員百六十名の玉なる手荷物が四百幾十箇、己れの行李が無い、鞄が紛失したら始こ夜の十二時過ぎまでガヤ〳〵



新竹二六、臺中三、南投二、廳下新庄四、枋橋一三、新店一五、深坑八等にして之等は悉く本島人なるが其他直轄內に於ては內地人十五六名を算するのみにて昨年度は謀開中の爲め特に靜粛なりし關係より見て本年度に於ては既に百五六十名に達せるが準備其他の都合に依り來る二十五日迄其の參拜有無を申出でられたしこの事なり、尙餘興に於ても昨年は時宜に依り全然廢止せしが本年度に於ては角觝、擊劍、柔道、臺灣芝居等を催すべく尙例年加へ來りたる藝妓手踊及び能狂言等は經費の都合に依り削除せしこの事にして尙當日の役員としては委員長平岡守備隊司令官、副委員長加藤臺北廳長等にして其他の各係長さしては

會計渡邊武長、祭事小林音八、設備中榮德藏、接待安田勝次郎、餘興桑野政敏、宿舍後藤新明、醫務市來牛次郎

の諸氏各囑託せられたり

臺北廳移轉式

▽明二十四日午前舉行

昨年來三坂橋庄に新築中なりし臺北廳舍は略々落成したるに依り明二十四日午前十時より同所に於て移轉式を擧行する筈にて其の次第は

一同日午前十時、一時間前煙火三發、來賓參集第二、來賓廳舍親覽二、發式(午前十一時)、來賓祝辭七、餅撒き八、開宴(奏樂合圖)九、模擬店開始十、散會

の順序なるが當日は佐久間總督も來場せられ官民の來賓も頗る多數の由なり尙ほ當日の來賓は擧式もあることなれば子供は同伴せざる樣服裝も飾り見苦しからざる樣注意ありたく且つ必ず徽章を附し可成案內狀を持參ありたしのことなり、尙同式場には下駄履きにては入り能はざるに依り靴草履にて行くが便利なるべしこ、以上は二十四日擧式當日の次第なるが翌二十五日より二十七日迄三日間は每日午前九時より午後四時迄同廳舍內に展覽會を開き一般の觀覽に供する筈なるが閉鎖時間は午後四時なれば一般觀覽者は遲くも三時牛迄に行かざれば謝絕せらるべし尙ほ此の展覽會には花道會よりの寄贈にかゝる臺北花道會諸先生の腕を振ひたる生花約八十基を陳列する由なり、更に夜間は明日より四日間該廳舍にイルミネーションを點じ煙火をも打上ぐるも由なれば夕涼みの散步に出掛くるも亦可なるべしこ

橘會生花大會

千島朗月女史の設立にかゝる橘會は同會の三周年を卜し本月二十五、六日の兩日盛進商行階上に於て生花、立華、盛花、瓶花の大會を開催し一般の同好者の縱覽を歡迎する由因に同會は社中も多ければ同日は定めし盛會ならん

臺北奚兒會

臺北學校奚兒會にては來る二十七日(火曜)午後六時鐵道ホテルに於て晩餐會を開き各小學校長、教育關係の新聞記者同會の爲に講演をなしたゝ學者等を招待する筈なりこ

陳氏母堂追悼會

鹽水港陳其春氏の母堂林氏追悼會は小野檢察官、加藤廳長其他二十五氏の發企を以て來る二十五日午後一時より鹽水港龍山寺に於て執行の筈

阿里山驛の椿事

阿里山線上り第二十九號列車は二十日午前七時頃樟腦寮停車場に於て運輸上に關し協議する所ありたる爲め約二時間停車したれば交力坪停車場行の豫定發車時間午前七時二十分に發車する能はざるより午前十時三十分交力坪に向て發車し一時前だ、他にも團體があるので臨時に擴張された高野口驛の昇降場もギシリの人で桶の中で芋を洗ふやうな有樣、驛頭には音樂隊が整列してブー〳〵で團參員を歡迎するなこ高野山も興行的で先つ甚だ有難くない氣がする、姿迎係こか案內係こか法衣の僧が出迎へる、開札口から吐き出された臺灣團は驛前の旅館東雲館へ入るこ此の家では團參員の爲にバラック式の廣間が新築されて居る、料理屋で多數の宴會をする樣に脊中合せに幾竝にも向き合つて座が定まるこ高擧脚高の膳が運ばれる、汁が注いで廻られる、大きな黒塗の盥の如き飯櫃が運び込まれてお粗末ながら腹支けは滿ちた、サア愈々これから高野山登りこムい

本年度招魂祭

明け靈したる諒闇以降の本年度招魂祭は昨年度に於ける青島十陸軍の新戰死者を合祀へて特に盛大に施行せらるべき筈なるが本年度に於ては本島五箇年理審事業最後の偉觀たるものこ期し一般參詣者を合祀せられたる遺族の參拜希望者の便宜を計るべく當臺北事務所に關する分は例の如く濁水溪以北の分なるが當日は特に遺族の參拜希望者の便宜を計るべく本日迄の高堂書店へ申込むべしこ

聯合遠乘會

體育倶樂部馬術部こ陸軍騎校園の聯合第二十五回遠乘會は來る二十五日施行の豫定なりこ

熊本縣人大會

熊本縣人會にては來る二十五日午十二時より圓山公園の廣場に於て家族大會を開催す車に押し詰められ道頓堀の宿屋四軒に分宿してホツこ一息、ヤレ〳〵團參ならもの、骨の折れ方は一層の事だ、總員百六十名の玉なる手荷物が四百幾十箇、己れの行李が無い、鞄が紛失したら始こ夜の十二時過ぎまでガヤ〳〵

廓藝者に惚ける

北門街四丁目盛進商行支店茶商中村與四郎方にて商工銀行二百三十九圓餘の預金通帳を何時の間にか竊取されたるが先月三日發見し屆け出でたるが銀行の方は昨年十二月二十五日二百三十九圓餘を引き出しの手續にて中村一子の名義の郵便貯金通帳を何時の間にか竊取されたるが先月三日發見し屆け出でたるが銀行の方は昨年十二月二十五日二百三十九圓餘を引き出しの手續にて中村一子の名義の郵便貯金通帳を何時の間にか竊取されたるが先月三日發見し屆け出でたるが銀行の方は昨年十二月二十五日二百三十九圓餘を引き出しの手續にて中村一子の名義の郵便貯金通帳を何

金魚氣を揉む

魚金に小君原因、卽ち石炭酸の噓下に就ての問題である

石炭酸こ死

昨紙にも報じたる通り千代作が自殺の手段に用ひたる劇藥は五十倍の石炭酸である彼女がそれを噓だのが二十一日の午後五時半そこ何等藥物學の知識を有たない素人の頭にも先づ浮んでくる疑問は單に五十倍の石炭酸を飮んだ位めに斃く短い時間に、僅か三時間半ぐらゐの間に死に得るか何うかといふことである世間一般の人がそのことに就いていろ〳〵な揣摩憶測を逞しくしてゐるやうな樣子があるので記者は試みに某醫師を訪うて五十倍の石炭酸を噓んでそれだけの時間で死に得るかを質問して見た

某醫師はこの質問に答へて曰く若し千代作が五十倍の石炭酸一封度卽ち四百五十瓦を一滴も殘さず噓んだこしたならばその中には石炭酸が八瓦強含まれてある譯であるが所が石炭酸の大人に對する致死量は十瓦乃至二十瓦であるのだが然し弱い婦人のことではないから八瓦でも死に得ないこともない先づ延髓を冒し漸次各中樞を侵されて先づ延髓を冒し漸次各中樞を侵されて死に至るのであるから八瓦でも胃壁や腸から吸收